

都市再生整備計画(第3回変更)

いわなみえきしゅうへんちく
岩波駅周辺地区

しずおかけん すそのし
静岡県 裾野市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	静岡県	市町村名	裾野市	地区名	岩波駅周辺地区	面積	32.9	ha							
計画期間	令和	4	年度	～	令和	8	年度	交付期間	令和	4	年度	～	令和	8	年度

目標

市北部を拠点とした地域住民や企業・工業団地の従業者の定住に向けて、岩波駅周辺で職住近接のまちづくりを実現する

- ①JR岩波駅前広場整備による交通結節点としての機能向上
- ②ゆとりある歩行者空間の整備による安全性向上・賑わいの創出
- ③地域住民とともに企業・工業団地従業者の生活・活動の場としての拠点性の向上

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
 当市は、静岡県の東部、駿河湾の北部に位置し、富士山、箱根山、多くの河川等の自然環境に恵まれるとともに、東名高速道路裾野インターチェンジや国道246号バイパスにより、富士・箱根等の観光地域を結ぶ高原リゾート拠点、研究開発型の産業拠点として発展した。しかしながら、平成27年の国勢調査で市制施行後、初の人口減少となった。人口減少局面に入ったこと、年少人口の減少と老年人口の大幅な増加が見込まれることから、少子高齢化社会に対応したまちづくりを行う必要があるため、平成28年3月に「裾野市都市計画マスタープラン」、平成31年3月には「裾野市立地適正化計画」を策定し、「拠点連携型都市構造」を将来都市構造に掲げ、集約・連携の都市づくりの推進を図っていくこととした。
 立地適正化計画では、全てのヒト・モノを強制的にある一点に誘導しようとするのではなく、合併の経緯や市街地形成の歴史的背景等も踏まえると郊外や既存集落の維持についても重要な観点としている。また、「地域公共交通網形成計画」との整合を図りつつ「長期的な視点で集約都市を形成するための将来都市構造のあり方」、「都市機能や居住の誘導に向けた区域設定」及び「集約都市の実現に向けた取組みを推進すること」が念頭に置かれている。中心拠点にはJR裾野駅周辺、JR岩波駅周辺を位置付け、2つの拠点性の向上により市全体の魅力と利便性のレベルアップを目指すものであり、北部地域の拠点であるJR岩波駅周辺では、地域住民や企業・工業団地の従業者の定住に向けた、職住近接のまちづくりの実現を目指している。

まちづくりの経緯及び現況

当市は、当地区を含む北部地域を中心に、昭和30年代から企業の工場誘致が進んだことにより、「農村都市」から「工業都市」へと発展を遂げてきた。昨今の人口減少・少子高齢化が進む中で、それらへ対応したまちづくりに向けて「裾野市立地適正化計画」を策定し、JR裾野駅とJR岩波駅の2拠点を都市機能誘導区域に位置付け、公共サービスを含む生活サービスと都市基盤施設の質を維持するために、選択と集中により効率的で持続可能な都市経営の実現を目指している。
 令和2年3月に策定した「深良地区まちづくりランドデザイン」では、JR岩波駅周辺をにぎわいゾーンと位置付け、駅周辺の魅力を高め、安心して暮らせるまちや安全面に配慮した交通利便性の高い環境を掲げ、まちづくりへの機運が高まっている。
 令和3年3月に「裾野市北部地域まちづくり基本構想」を策定し、裾野市北部地域のまちづくりの短期構想にJR岩波駅周辺のまちづくりを位置づけ、従来からの計画に加え様々な人の集まり、交流の拠点としての機能を持ったまちづくりを行っている。

課題

- ・JR岩波駅周辺には工場を中心とした各種大手企業などが点在しており、朝夕の通勤・通学者による混雑が常態化している。
- ・JR岩波駅周辺は、市道1-12号線をはじめ、歩道の整備が乏しく、駅周辺の歩行者と車動線の重複による危険性がある。
- ・JR岩波駅周辺は北部地域の拠点でありながら、生活利便施設の立地が少なく、従業者の住宅取得時期に合わせて市外へ転出するケースが多い。
- ・乗換機能や待合機能などの交通結節点としての機能が不足している。
- ・JR岩波駅周辺は、空き店舗、空き地が目立ち、また、駐車場がなく、車中心の消費生活に対応しきれていない。

将来ビジョン(中長期)

【第5次裾野市総合計画(2021年策定/基本構想計画期間:2021~2030年)】
 施策の大綱として、将来を見据えた暮らしや活動を支えるまちを掲げ、次世代型近未来都市の形成や駅周辺等の拠点づくりと多様な世代の交流の促進等を目指している。
 【裾野市都市計画マスタープラン(2016年策定/目標年次:2035年)】
 深良地区のまちづくり基本方針として、良好な住環境の保全による地域活力の維持・向上を掲げ、JR岩波駅周辺を「地域生活拠点」に位置付け、都市基盤の整備の推進を目指している。
 【裾野市立地適正化計画(2019年策定/目標年次:2035年)】
 立地適正化計画の方向性として、JR岩波駅周辺の拠点性の向上を図るとともに、民間活力による賑わいの創出を目指している。
 【裾野市北部地域まちづくり基本構想(2021年策定/基本構想期間:2021~2035年)】
 北部地域のまちづくり構想として、JR岩波駅周辺を、ウーブン・シティをはじめとする新たな計画の中心地及び北部地域の交通結節点としての安全性・利便性の向上により、様々な人の集まり、交流の拠点として整備することを目指している。
 【岩波駅周辺地区まちづくり基本計画(2022年策定/短期整備計画期間:2022~2031年度)】
 岩波駅周辺地区のまちの将来像として、岩波らしい自然と未来技術でつながるまちを目指している。

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

- 立地適正化計画の方向性を踏まえ、持続可能な都市づくりに向けた「JR岩波駅周辺の拠点性向上と多様な世代の交流」を目指すと同時に、近接で開発が進む民間による未来都市との融合を図る。
- 多様な世代が交流することで、市民が安心して元気に暮らすことのできるまちを目指す。
- JR岩波駅周辺の拠点性の向上を図るとともに、民間活力による賑わいの創出を目指す。
- 持続的な公共交通ネットワークの形成と利用者の維持を目指す。
- 持続的で健全な財政運営と行政サービスを維持し、市民が住みやすいまちを目指す。
- 市街地の活力と生活利便性を向上し、ネットワークを維持することで、郊外住宅と集落の定住とコミュニティの維持を目指す。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

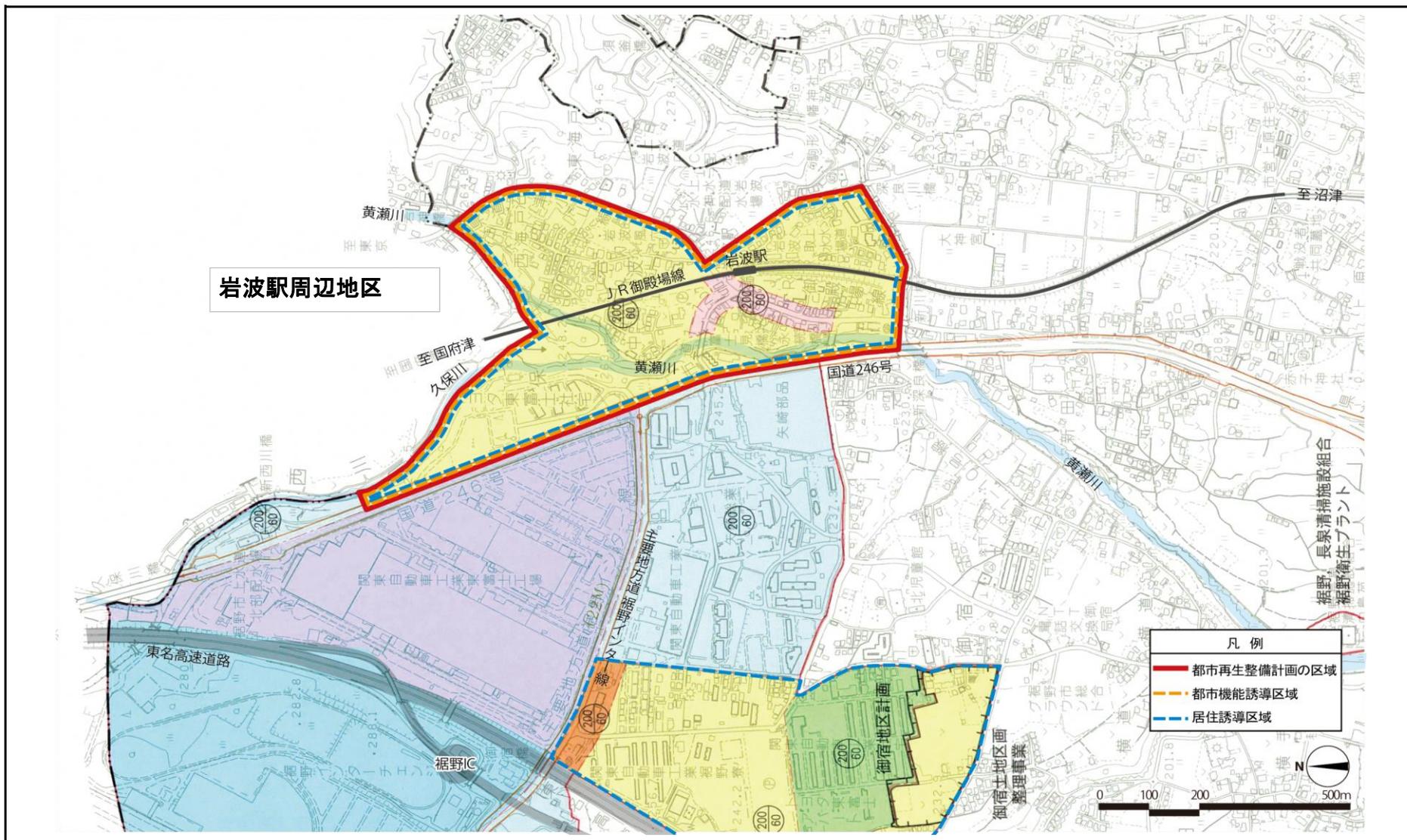
都市再生土地区画整理事業や都市・地域交通戦略事業の特例を受ける場合は当該事業の概要、位置づけを記載。

目標を定量化する指標 市民意識調査の「市街地・駅周辺部での快適な暮らし」の項目で「満足」「まあ満足」と回答した深良地区の人の割合+E23

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
市街地・駅周辺部での暮らしに満足している市民の割合	%	市民意識調査の「市街地・駅周辺部での快適な暮らし」の項目で「満足」「まあ満足」と回答した深良地区の人の割合	JR岩波駅周辺の整備により利便性や安全性、拠点性が向上し、住民の満足度の向上が図られる。	9.7	R2	12.0	R8
JR岩波駅の乗降客数	人/日	静岡県統計年鑑で示される、JR岩波駅の1日当たりの乗降客数	駅を中心に周辺への賑わい波及を目指すため、乗降客数を賑わいの指標とする。	2,095	R1	2,125	R8
JR岩波駅前交差点の交通事故件数	件	静岡県警察が公表している事故事件発生マップのうちJR岩波駅前交差点の直近3年間の平均事故件数	JR岩波駅前広場及び市道1-12号線の整備により、まちの安全性の向上が図られる。	1.67	R2	1.33	R8

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>安全性向上のため、JR岩波駅前において、ロータリー、自転車駐車場などの整備を推進する。また、JR岩波駅と複合施設をペDESTリアンデッキで結ぶ、利便性向上のため、駐車場、情報発信拠点や子育て・医療機能などを有する施設の整備を行い、これにより、行政サービスの強化や、当市北部地域の玄関口として、駅前の利便性の向上と安全・安心のまちづくりを目指す。</p>	<p>○基幹事業 地域生活基盤施設:JR岩波駅前広場、人工地盤(ペDESTリアンデッキ)、駐車場、自転車駐車場</p>
<p>沿道拡幅により、今後発展が見込まれるパーソナルモビリティと歩行者とが共存した空間の整備を推進する。また、沿道には民間の商業施設の誘導を図り、歩行者やパーソナルモビリティ利用者が利用できるオープンカフェ等を整備し、人々が思い思いの時間を過ごせる空間を目指す。</p>	<p>○基幹事業 道路:市道1-12号線 ○関連事業 岩波駅周辺PFI事業:複合施設(商業施設等)</p>
<p>黄瀬川沿いの美しい水流やごつごつとした岩場の迫力を借景としながら、変わらぬ魅力、変わりゆく魅力を同時に感じられる空間の創出を図る。また、飲食テナント、沿道公園などの整備を行い、大切な人と過ごすかけがえのない時間を生み出す空間の創出を目指す。</p>	<p>○基幹事業 道路:市道1264号線、市道1822号線 高質空間形成施設:市道1264号線周辺(緑化施設等)</p>
<p>その他</p>	
<p>【御宿区画整理】 平成28年11月に「裾野市北部地域職住近接の防災スマートシティ創出推進区域」として、ふじのくにフロンティア推進区域第6次指定を受けたエリアで、土地区画整理事業により基盤整備を行い、職住近接の防災スマートシティの創出を目指している。 事業規模:約4ヘクタール、事業内容:環境に優しく、防災力の高い職住近接の防災スマートシティの形成に資する住宅団地の整備を行う。分譲宅地98区画。コンセプト①職住近接のまちづくり②次世代の環境水準を目指すスマートシティ③自然と調和のとれた暮らし環境④防災・減災の仕組み</p>	

岩波駅周辺地区(静岡県裾野市)	面積	32.9 ha	区域	岩波字小鍋田、前ノ田、中田、橋上、ビワクビ、下ノ田、東海戸、西海戸、中島、御宿字小鍋沢上、上アライ
-----------------	----	---------	----	---



岩波駅周辺地区(静岡県裾野市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	北部地域の玄関口であるJR岩波駅周辺の拠点性の向上	代表的な指標	暮らし満足度 (%)	9.7 (R2年度)	→	12.0 (R8年度)
			JR岩波駅の乗降客数 (人/日)	2,095 (R1年度)	→	2,125 (R8年度)
			JR岩波駅前事故件数 (件)	1.67 (R2年度)	→	1.33 (R8年度)

